

神戸出身の私が、縁もゆかりもなかった松江に住むと、街を歩くごとに新たな発見がある。観光地に長期滞在しているような気分が、ずっと続いている。

松江城の天守閣が、姫路城などと同じく創建当初の姿を維持していることに加え、実は戦前は国宝であったことも、こちらに来て初めて知った。本殿が現存最古の大社造で国宝の神魂神社のほか、「出雲国の一の宮」を名乗る熊野大社も、わが家からすぐ近所だ。

古代から中世にかけて、出雲の国の国府が置かれたのは松江であり、

出雲国庁跡の付近は、私にはなじみのある奈良の飛鳥地方に非常によく似た不思議な雰囲気がある。

そこから程近い風土記の丘では、古墳の石室まで入れるところがあり、隣接する民話館では昔ながらの紙芝居が上演され、子どもも大喜びだ。野外劇場のような場所でも夜に新能が上演されていたときには、入場無料なのに並ばずに見ることができてびっくりした。「ホタルの乱舞」というものをこの目で初めて見たのも、こちらに来て

都会や地元で宣伝しよう

宝の山、灯台下暗し



宍道湖のシジミ漁。山陰の魅力を象徴する風景の一つだ（資料）

から。神戸にいたときに子どもを喜ばせるため、わざわざ兵庫の山奥まで車で2時間以上もかけて、ほんのちょびっとのホタルを見に行ったのが、あほらしくなった。宍道湖の夕日の美しさ

は昔から少し知っていた。私はシジミ船が何十と浮かび、時々腰から上だけ出したおじさんの姿が見える、宍道湖の朝の風景が好きだ。多古鼻のコテージから見下ろす日本海も素晴らしいが、枕木山華蔵寺から眺める大山と中海も圧巻だ。ところで、これだけ素

晴らしい観光名所がありながら、人の姿はどこもまばらだ。駐車場は1円もお金を取らないし、周辺にちょっとお茶でも、というところもなかなか見当たらない。そもそも、地元の人に「あそこは素晴らしいですね」と言ったら「それ、どこですか？」と聞き返されることのほうが多い。

ただ、こういうところを「魅力的だ」と言ってもっと大阪や東京で宣伝することあわせ、地元でもそういうことを私から言っていく、地域にぎわいや商売をつくっていく。それこそ、駅長の役目ではないか。

そう思って始めたのが、駅の広場にいろいろな地元のパンフレットを置くことと、あと「フェイスブック」だ。
(JR松江駅長・内山興)

第2、4月曜掲載

